

平成30年度鎌ヶ谷市男女共同参画推進懇話会第3回会議録

日 時 平成31年2月7日(木) 10:00～11:30
場 所 鎌ヶ谷市役所本庁舎6階 第1・2委員会室
出席委員 内海崎貴子委員、藤本勲委員、芹澤佐知子委員、石田友和委員、
今村喜和子委員、太田直美委員、平田真裕美委員、有川かおり委員
欠席委員 山田芳裕委員、佐川幸江委員
事務局 西山市民活動推進課長、萩原主任主事、
山崎プロジェクトマネージャー
傍聴者数 1名

会議内容

- 1 開会 西山市民活動推進課長
- 2 会長挨拶 内海崎男女共同参画推進懇話会会長
- 3 会議録署名人の選出
名簿順により芹澤委員、藤本委員が選出された。
- 4 議題
 - (1) 職員のための表現ガイドの改正案について
 - (2) 次期男女共同参画推進計画の策定スケジュール等について
 - (3) その他

(事務局)

議題(1) 職員のための表現ガイドの改正案について説明。

(委員)

1ページの「表現の与える影響は、言葉や視覚、聴覚に訴え、意識に大きな影響を与える力を持っています。」の記載だが、「影響」の文字が2つ出てきているので、どちらかを削除したほうがよい。

(事務局)

そのとおりであり、削除する。

(委員)

2ページの「市民は男女平等と感じているのか？」の記載内容について、この

市民意識調査は誰を対象とし、どのように実施したのか。

(事務局)

市民3,000人を対象にアンケートを行った。具体的には、住民基本台帳から3,000人を無作為抽出して、郵送でアンケートを行った。

(委員)

男女平等と思う人の割合は、全体的に見て、学校教育を除いてほとんど数値が低く、3分野で増えたと記載しても、たいして増えたとはいえず、まだまだ低い。5年前からほとんど変わっていないということをもっとここで強調すべきだと思う。

(会長)

国も同様の調査を行っているので、その調査結果がどうなっているのか。重ね合わせると、鎌ケ谷市の現状が見えてくると思うし、それを踏まえた内容を記載するとわかりやすくなると思う。

また、グラフのすべての項目について載せる必要があるのか。例えば、差違が大きいところだけ記載してパーセンテージを載せる方法も考えられる。

(事務局)

国では直近で平成28年度と平成24年度に調査を実施しており、その調査結果の項目を確認すると、鎌ケ谷市の数値が特段低いということではないことがわかっている。

具体的には、質問項目の「社会全体」で見ると、国では平成28年度が前回調査より3.5ポイント下がった21.1パーセントとなり、今回の鎌ケ谷市の市民意識調査も平成30年度は5年前の調査より3.4ポイント下がった16.7パーセントとなっており、国も同じような状況であることがわかる。

(委員)

国の数値が低いから鎌ケ谷市も低くて良いというわけではない。

国の数値をここに載せることで、逆に「国も下がっているのであれば、別に良いのではないか」と思われてしまう可能性がある。モデルになるような自治体のデータと比較するなどしても良いのではないかと思う。

(会長)

モデルになるような自治体として、文京区が挙げられるが何で文京区と比較するのか説明が難しい。県内の自治体なら良いと思う。

(委員)

もっていき方の問題で、この表現ガイドは、あくまで職員向けなので、これはこれでよしとし、今後、職場アンケートの実施が予定されているので、平成30年度の市民意識調査では、「5年前より低くなっているのはなぜか」ということを考えてもらうなど、次に展開するやり方もある。

(委員)

そうであれば、職場アンケートで意識の高い自治体の数値を載せる方法もある。どこか数値の高い自治体を載せて、職員への啓蒙につなげたい。

(会長)

千葉県では同様の調査を実施しているのか。

(事務局)

千葉県でも同様の調査を実施しているが、数値としては、鎌ヶ谷市と同様の傾向であると思う。

(委員)

国で目標値を示しているのであれば、その数値を活用して、現時点でこれだけ達していない、今後、目標値を目指していかなければならないと感じてもらう方法もあるのではないかな。

(事務局)

このグラフに対する国の目標値は示されていない。

男女共同参画室では、職員向けの男女共同参画研修を設けているので、その中で、表現ガイドについて説明する時間を設け、改定理由や市民意識調査の結果を解説するなど、職員の意識を高める取り組みを実施していきたいと考えている。

また、改定した表現ガイドを職員に向けて発信する時に、例えば、通知文の中に、市民意識調査の結果で5年前とほとんど変わっていない現状を記載することで認識してもらい、次の計画策定の際にも、今後この結果をどのように改善していけば良いのかということに活用していければと思う。

(会長)

5年前とほとんど変わっていない現状について、職員に認識してもらったほうがよい。男女平等と感じる意識が5年間ほとんど変化がなく、むしろ、下がっている項目がある。そのため、男女共同参画を推進していくにあたり、表現ガイドを活用して、普段の表現を改めてもらい、市民の意識啓発につながるようにしていかなければならないという感じでまとめるのがよいのではないかな。

この市民意識調査の結果のところでは、マイナスの面をしっかりと指摘して、だからこそ表現ガイドを活用する必要があるということ記載し、伝える必要があるのではないか。

数値が依然として低い、だから改善のために表現ガイドを活用してほしいという伝え方をしたほうが説得力がある。

(事務局)

承知した。

(委員)

3ページが一番下の黒丸のところは文章が途中で切れている。

(事務局)

表示ミスであり、修正する。

このところは、次に「を表現しましょう。」が入る。

(事務局)

議題（2）次期男女共同参画推進計画の策定スケジュール等について説明。

(委員)

次期計画を策定するにあたって、現計画の現状と課題等がわかっている懇話会の委員がそのまま引き続き、策定委員会の委員になる形が望ましいとの事務局の発言があり、確かにそう思うが、団体間での持ちまわりで推薦されて委員になっている人にとっては、難しい話になるかも知れない。

(事務局)

その点は、市として関係団体に説明していく方向で考えている。

(会長)

策定委員会と部会の違いだが、委員会では計画全体のことを見て決めていく、部会は個別の詳細な中身を検討し、決めていくという区分けで良いか。

(事務局)

そのとおりである。

(会長)

計画骨子案については、現計画の骨子を大きく変えていく方が良いのかということを検討する必要があると思うし、現計画を策定してから、国の施策や様々

な社会的状況の変化などを勘案した時に、まず、どれを入れていかななくてはならないということが明確になっていなければ、骨子は決められないと思う。この骨子案については、事務局で素案を用意するのか。

(事務局)

そのとおりである。

(会長)

パブリックコメントの実施時期が平成32年9月の予定となっているが、かなり早い設定となっている。どこの自治体でも、だいたい12月や1月に実施している。

(事務局)

このスケジュールは、あくまで理想の設定であり、進捗状況に応じて見直していきたいと考えている。

(会長)

アンケートは、業者委託なのか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

市民、事業所アンケートと職員・教職員アンケートは、質問項目は同じなのか。

(事務局)

同じ項目もあると思うが、違う項目も入れる予定である。

(委員)

教職員アンケートは、全教職員が対象なのか。全教職員を対象とするのは、大変だと思う。

(事務局)

前回の時の詳細を把握していないので、その点もどうしていくのか今後検討していく。

(会長)

教職員までアンケートを実施しているのは、あまりないため、鎌ヶ谷独自の取

組だと思ふ。

(委員)

7月の策定委員会以降のアンケートの実施となるとボリュームにもよるが、忙しいのと夏休みに入ってしまうため、難しいかも知れない。アンケートの回収にあたっては、余裕を持った日程をお願いしたい。

(事務局)

承知した。アンケートをいつまでに回収するかも含め、今後、調整していきたい。

(委員)

策定委員会の委員について、男女比率は、半々ぐらいが良いと思うが、いかがか。また、策定委員会の中で、懇話会の委員ではない委員は、どのような方がいるのか。

(事務局)

男女共同参画に関する会議であるため、委員の男女比率は半々を目標に考えている。

今回の懇話会に含まれていない方としては、前回の策定委員会では、自治会連合協議会の代表の方が入っていた。今回も委員としてお願いするかどうかは、実際に団体へ依頼してみないとわからない状況である。

(委員)

7月の策定委員会の議題が多く予定されているが、部会員の決定やアンケート調査項目などがある中で、1回約2時間の会議の中で、終わるのか心配である。

(委員)

アンケート調査項目に時間を要するため、前倒しして6月に会議を開催して、7月の会議で確定させ、7月末にアンケートを回収できるような流れが良いと思う。メールで事前に資料を見ておいてもらう方法もある。

(会長)

メールでのやりとりもよいが、実際に話し合っ、他の委員の意見を聞くことで気づく点も多々あると思うので、会議を開くことも必要である。

策定スケジュールについては、これまでの委員のご意見を踏まえ、再検討していただきたい。

(事務局)
承知した。

(事務局)
議題(3) その他事項、前回第2回会議で説明した男女共同参画推進計画進捗状況ヒアリングの実施結果について説明。

(会長)
ヒアリングを実施して、印象に残った点などあれば、教えていただきたい。

(事務局)
例えば、総務課では、「女性委員比率30%の目標の達成」という取組があるが、審議会の女性委員登用に向けては、女性委員がいないところの審議会担当部署に、それぞれの団体に直接声かけなど一緒に行っていくことで、目標達成を目指していくということを共通認識できた。

また、対面で話を聞くことで、取り組んでいる事業の内容がよくわかったり、ヒアリング出席者についても、庶務担当者だけでなく、ある程度、職歴のある課長補佐や係長などにも、参加していただいたので、そのような職員にも、男女共同参画がなぜ必要なのか理解していただけたというのは非常に良かったのではないかと思う。

(会長)
事務局の負担が多くなると思うが、このような取組は継続的に実施していただきたい。

(会長)
次回の会議は、5月30日(木)に開催する。

○以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和元年5月30日

氏名 藤本 勲

氏名 芹澤 佐知子